

2021年1月12日(火)

《 今日の主なニュース 》

～ 日経ニュースなどを中心に抜粋 ～

◆政府、不特定多数にPCR 繁華街などで感染状況把握

・政府は3月にも不特定多数を対象にした新型コロナウイルスのPCR検査を始める。都市部の多くの人が集まる場所で毎日数百件から数千件検査し、無症状者を含む感染の全体像把握に役立てる。SNSの書き込みなどから国民の警戒感の変化も追う。陽性者の急増や警戒感の低下をつかみ、速やかに感染防止策を強化するといった対応につなげる。

◆景気指数6カ月ぶり低下 11月、基調判断は据え置き

・内閣府が8日発表した2020年11月の景気動向指数(CI、2015年=100)の速報値は、景気の現状を示す一致指数が前月比0.3ポイント低い89.1。6カ月ぶりに前月を下回った。11月は気温が例年より高く冬物衣料の販売が低迷したほか、新型コロナウイルスの感染者増加の影響も一部に見られ、景気の基調判断は「下げ止まり」を据え置いた。

◆11月の消費支出1.1%増、感染再拡大で上げ幅縮小

・総務省が8日発表した2020年11月の家計調査によると、2人以上の世帯の消費支出は27万8718円となり、物価変動の影響を除いた実質で前年同月から1.1%増加した。2カ月連続で増加したが、新型コロナウイルスの感染再拡大で上げ幅は前の月(1.9%増)から縮小した。季節調整済みの前月比では1.8%減り、4カ月ぶりのマイナスとなった。

《 業界ニュース 》

～ 日経ニュース・日刊工業新聞・新建ハウジングなどを中心に抜粋 ～

◆電力需給が逼迫、設備利用率9割続く 新電力に値上げ圧力

・電力業界が寒波による需給逼迫への対策に迫られている。電力設備の使用率が9割超まで達するなか、各社が他社からの融通を拡大し、不足する発電用燃料の調達では石油やガス業界にも協力を要請した。電力卸価格の上昇で新電力の料金にも影響が広がり、安定供給と脱炭素に向けた課題が浮き彫りになっている。

◆清水建設、ビルの感染対策を採点 改装の提案力高める

・清水建設は1月中に、オフィスビルの感染症対策の効果を探点して改善を提案するコンサルティング事業を始める。これまで非接触ドアなど設備ごとに感染対策を施してきたが、医学的な知見に基づいて建物全体の対策を点数化する。提案力を高めて改修などの需要を掘り起こす。次の感染症に備えたビル設計に生かす狙いもある。

◆鉄鉱石、年明け高値スタート 国際相場 前年比7割高

・鉄鉱石の国際相場は2021年も高値で始まった。昨年末の下げ調整を経て年初は上げ戻しており、足元の相場は1年前に比べて7割高い。中国の需要が価格を押し上げており、新型コロナウイルス禍で落ち込んだ中国以外の鉄鋼生産回復で需要は上向く。供給は豪州の増産で賄われるが、余裕はないという。

《 注目商品 》

■TOTO、「陶器製広ふかボウル」

・「ドレーナ」は、デザイン性の高いアイテムや色を組み合わせるカスタマイズできる洗面化粧台。2月より、新たに「陶器製広ふかボウル」と「ハイネックスウィング水栓(ホース付き)」が追加され、より豊富なアイテムから選択可能となる。



■三和シャッター ドアを自動で開閉するトイレブース

・ドアを自動で開閉できるトイレブースを発売した。ブース内に設置しているセンサーに手をかざすとドアが電動で開閉する。新型コロナウイルスの感染対策としての需要を見込む。スライド式の曲面ドアを採用している既存のトイレブース「RブースTR40」に、電動センサーの新機能を追加。



■パナソニック、スポット光1,500lmで照らせる「工事用 充電LEDスポットワイドライト」

・天井裏などの暗闇での確認・作業時に遠方を明るく、狙ったポイントを照射できる持ち運びのしやすいライト。業界No.1の1,500lmのスポット光は遠方照射に最適な光学設計により、20m先でも平均約250lxの明るさで照らすことができる。

